

1 つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

夏休みのある日、ぼくは図書館で借りた本をかかえて、家の近くの森へ出かけた。ひさしぶりに足を踏み入れる森は、ひんやりとした空気に包まれていて、木の葉の間からさす光がきらきらとゆれていった。切り株に腰をおろし本を開いたとき、ふと耳に届いた。

「ポロン……ポロン……」

風鈴のようでいて、どこがちがう澄んだ音だった。セミの声にまじりながらも、まっすぐ心に届くような響き。ぼくは思わず立ち上がり、音のする方へ歩き出した。

小川を越え、草をかきわけて進むと、森の奥に大きなブナの木と小さな祠が現れた。祠の前には透明な石が並び、風にふれるたびに「ポロン……」と鳴っている。

「これが音の正体か。」

石は青や緑にかがやき、手に取るとひんやり冷たい。心の奥にしみこんでくるような不思議な感触だった。

そのとき、背後から声があった。

「その石は昔から森を守ってきたんだよ。」

ふり返ると、白いひげのおじいさんが立っていた。いつのまにか近づいてきたらしい。ぼくが驚いて石を戻すと、おじいさんはここにこしながら続けた。

「これは『音の石』と呼ばれている。風にのせて森の声を伝えるんだ。森が苦しいときほど強く響くんだよ。」

「じゃあ、今の音は森が何かを伝えているってことですか？」

問いかけると、おじいさんは静かにうなずいた。

「最近、森の外で道路工事が始まっただろう。」

木々や動物たちは不安なのさ。だから君に気づいてもらいたかったんだろう。」

ぼくは胸がざわついた。入口近くで響いていた工事

の音を思い出し、この森もいつか削られてしまうかもしれないと思った。

「ぼくにできることって……?」

そうつぶやくと、おじいさんはやさしい目で答えた。

「まずは森を好きでいること。そして、家族や友だちに話すんだ。大切に思う人が増えれば、森は守られる。」

気がつくと、おじいさんの姿はもうなかった。祠の前で揺れる音の石だけが、なおも「ポロン……」と鳴っていた。ぼくは切り株に戻ったが、本を読む気にはならなかった。胸の奥で音がいつまでも響いていたからだ。

家に帰り、母に森での出来事を話すと、少し驚いた顔をしたあとで笑った。

「すてきね。今度、家族みんなで森を歩いてみたらどう?」

ぼくはうなずいた。あの音を、ひとりで聞くよりみんなで感じたほうがいいと思ったからだ。

その夜、窓を開けると、遠くから「ポロン……」という響きが聞こえた気がした。森はまだぼくに語りかけている。これからも、この不思議な音を忘れないでいようと思った。



(1) 物語の始まりで、ぼくはどんな場所で本を読もうとしていましたか。一つ選びなさい。

- ① 公園のベンチ
- ② 家の縁側
- ③ 森の切り株
- ④ 学校の図書室

答え ()

(2) 「ポロン……ポロン……」という音は、どのように表現されていますか。本文から十五字以内で抜き出さない。



(3) 祠の前に並んでいた「音の石」について、本文の説明に合うものを二つ選びなさい。

- ① 青や緑にかがやいていた
- ② ふれると熱く感じた
- ③ 風で触れ合い音を出した
- ④ 金属のかげらでできていた

① () ② ()

(4) おじいさんが語った「音の石」の役割を、本文に合うように二十五字以内でまとめなさい。



(5) 「ぼくは胸がざわついた。」とありますが、このときのぼくの気持ちを次の中から最も適切なものを選びなさい。

- ① おじいさんに会えて安心した気持ち
- ② 工事のせいで森がなくなるかもしれない不安になった気持ち
- ③ 音の石をもらえてうれしい気持ち
- ④ 祠を見つけて得意になった気持ち

答え ()

(6) この物語全体を通して作者が伝えたいことは何ですか。次の中から最もふさわしいものを選びなさい。

- ① 本を読むより森を歩いたほうが楽しい
- ② 森には不思議な宝物がかくされている
- ③ 自然を大切に思う気持ちが未来を守ることにつながる
- ④ 夏休みには冒険をしたほうがよい

答え ()

(1) 物語の始まりで、ぼくはどんな場所で本を読もうとしていましたか。一つ選びなさい。

- ① 公園のベンチ
- ② 家の縁側
- ③ 森の切り株
- ④ 学校の図書室

答え (③)

(2) 「ポロン……ポロン……」という音は、どのように表現されていますか。本文から十五字以内で抜き出さない。

風鈴のようであいて、どこかちがう

(3) 祠の前に並んでいた「音の石」について、本文の説明に合うものを二つ選びなさい。

- ① 青や緑にかがやいていた
- ② ふれると熱く感じた
- ③ 風で触れ合い音を出した
- ④ 金属のかけらでできていた

① (①) ② () ③ ()

(4) おじいさんが語った「音の石」の役割を、本文に合うように二十五字以内でまとめなさい。

解答例
風に乗せて森の声や苦しみを人々に伝える役割

(5) 「ぼくは胸がざわついた。」とありますが、このときのぼくの気持ちを次の中から最も適切なものを選びなさい。

- ① おじいさんに会えて安心した気持ち
- ② 工事のせいで森がなくなるかもしれない不安になった気持ち
- ③ 音の石をもらえてうれしい気持ち
- ④ 祠を見つけて得意になった気持ち

答え (②)

(6) この物語全体を通して作者が伝えたいことは何ですか。次の中から最もふさわしいもの一つを選びなさい。

- ① 本を読むより森を歩いたほうが楽しい
- ② 森には不思議な宝物がかくされている
- ③ 自然を大切に思う気持ちが未来を守ることにつながる
- ④ 夏休みには冒険をしたほうがよい

答え (③)